

JOMA 通信

1984年3月 No.23

海外宣教連絡協力会公報
Japan Overseas Missions
Association

発行者 芳賀 正

事務局 〒166

東京都杉並区成田西1-16-4

日本の教会の現状とその打開

JOMA副会長 内村 撒母耳

私は今年の2月14日から16日までの3日間をフィリピンに行って二人の宣教師と会い現地の教団の方々とお会いして大変有益な時を持ちました。宣教師達は、日本から派遣されておりますが現地のニーズに応じて宣教に従事しようと精一杯の努力をしております。

二人の献身的な宣教師と3日間を過している間に私は日本の教会の現状を考えさせられました。

それは

何かをしなければならないと思っているが、何をどのようにするかがわからない。ということです。この情報過多の時代にとられるでしょうが、この聖書の中の富める青年の如く、「走りより」「み前にひざまづく」規則はよく守っている熱心な、謙遜な日本の教会、聖書信仰に立つて成長しつつある教会と云えますが、宣教師も送り出しているのですが、心のどこかにこれだけしているのに、という意識が働いていないだろうか。

それに対して

1. 自分達のして来たことを見ているのみで、目を挙げて畑を見なさいと云われておりますので、もつとマケドニヤ人の呼びを愛の心で受けとり、痛みを我がことのようにしていく時、幻の拡大が

聖書宣教会気付 海外宣教連絡協力会
必然的になされていくと考えられます。

2. 以前と比べて日本からも宣教師が出ています。そしてそのために教会でも宣教献金をしていただいておりますそれは全くすばらしい事で大きな意味のあることでありますが、これ位でよいとの思いで、犠牲を払ってまでも宣教を考えているといえますでしょうか。自分の生活を温存させながら宣教出来ればと願っているのではないのでしょうか。

本気になり、信者が牧師と心をつにして主の御旨を求めていく時、国内外の宣教姿勢は今までと違ったものになるでしょう。

3. 青年には未来がありますように日本の教会にも未来があります。宝のある所に心もあるのですから、全き献身をする時、将来の可能性は主の手に握られるので、主の業を行う事が出来る云えます。教会から宣教師を送り出し、財を送り出しました。が今、教会員が心を主に献げる事ではないでしょうか。

個人的ですが毎朝の昇天において又、徹夜祈禱において私は、日本のリバイバル 教会のリバイバルを求めて今日まで来ました。

全能の神がいて下さるのです。主は器を整えて潔めて、主のために用いることが出来るのです。

この聖書からみると足りないことが1つあると云われてますが、絶対的な、不可能な部分の不足でなく、人信の時のように主を心の王座に受け入れて従う時、主の業は成っていくのです。

「牧師のための

海外宣教セミナー」報告

昨年11月17日・18日の両日にわたって、JOMA主催の「牧師のための海外宣教セミナー」が開かれました。会場が東京・お茶の水学生キリスト教会館、講師はデニス・レーン師でした。レーン師は英国で牧師として奉仕された後、OMFの宣教師として東南アジアで20余年働かれ、現在シンガポールのOMFの本部で全世界の宣教師派遣の責任を負っておられます。同師はまた宣教のスポークスマン、説教者、著者としても知られ、各国の宣教大会でも講師として活躍しておられ、実に幸いな講師をむかえることができました。

「海外宣教は教会の業であり、日本の教会がこれから更に海外宣教の働きを進めるために、派遣し、祈る教会がどうあるべきかを共に学び、更に主の宣教大命を果す教会となりたい」と願って開かれたセミナーでした。

参加者は43名で牧師、伝道師、宣教師はじめ、信徒の方々も数名参加され、有意義なセミナーでした。以下にプログラムと簡単な内容の報告を致します。

* * *

— プ ロ グ ラ ム —

	11月17日(木)	11月18日(金)
9:00	受 付	
10:00	開 会 礼 拝	
10:30	講義(1) 「聖書と海外宣教(1)」	パネルディスカッション 「海外宣教へのとりくみ」
12:00	昼 食	昼 食
1:00	講義(2) 「聖書と海外宣教(2)」	講義 「宣教地の現状」
3:00	講義(3) 「海外宣教と牧師」	
5:00	夕 食	
6:30	講義(4) 「地域教会と海外宣教」	
8:30		

1983年度JOMA会長の芳賀正師の開会礼拝での奨励と講師紹介の後、レーン師の講義にはいり、まず旧約聖書にあらわれた宣教に関する神のみどころが、特に創世記とイザヤ書から説き明かされ、アブラハムとキリスト、イスラエルと教会が対比されて宣教に対する教会の使命が指摘されました。

講義(2)では新約聖書にみられる海外宣教というテーマで語られ、福音書と使徒行伝からキリストの宣教姿勢、そして使徒と宣教、聖霊と宣教のかわりが説かれました。

続く講義(3)では宣教師志願者に対して牧師がどう指導すべきか、教会に与えられた宣教の使命を牧師がどうとらえていくべきか等が、レーン師の経験もまじえながら語られました。

「地域教会と海外宣教」(講義(4))では、特に使徒行伝の中からアンテオケ教会の宣教へのとりくみ方を詳しく学び、チームとしての働きをした、聖霊の導きに従順であった、等が指摘されました。

18日のパネルディスカッションは、パネラーに井出定治師(朝顔教会)、村岡泰右師(富士宮教会)、唄野隆師(大浜教会)、牧野直之師(OMF)が、司会者には稲垣博史師(聖書同盟)が立てられました。そして各教会の宣教姿勢、具体的なプログラム、苦勞などの紹介があり、

宣教師の立場からの意見も述べられた後、ディスカッション、会場からの質問と続き盛んなひとときでした。

講義(5)ではレーン師が豊かな経験と視野から特に東南アジアの宣教事情を詳しく紹介してくださいました。

尚、講義及びディスカッションが録音されていますので、ご希望の方はJOMAまでご連絡ください。実費でおわけいたします。

「キリストの肢体として」

OMF宣教師 牧野 直之

私は宣教第二期を終え、昨年帰国しました。この1年、全国の諸教会を訪問させていただき、多くの禱援者とお会いし、励まされ教えられました。今回の巡回は三度目でした。この十年間、諸教会には様々な変化がありましたが、全般に、福音的な諸教会の世界宣教に対する態度は、余り変わっていないようです。

周知のことですが、世界宣教は主イエスの命令であり、私達は地の果てまで主の証人となる使命を与えられています。又、パウロは「私たちはみな、ユダヤ人もギリシャ人も奴隷も自由人も一つのからだ」なのだを教えてます。人種、階層を超えてキリストのからだの各器官とされることは、必然的に私達を世界宣教と結びつけます。ところが、多くの教会はキリストのからだの一部としての教会という視野を持っていません。

確かに、日本に於ける伝道牧会の仕事は重く、外国のことまで関心を持つ余裕がないというのは、真実な声でしょう。重い責任と多忙の中で主の命令に従っていくには、知恵が必要です。世界宣教といっても漠然としていますから、ある国又は地域に絞っていく必要があります。そして、その地域に関する資料を教会ぐるみで集め、理解を深めることが大切です。すでにいくつかの教会で実行しているよう、宣教委員を選び、宣教師の必要と宣教地を理解するプログラムを持ったり、宣教資料コーナーを設けるなど積極的に啓蒙活動を行うことが大切でしょう。

外国の状況を知ることは、世界宣教に対する正しい態度を生み出します。先ず気が付くことは、相違です。日本で当然と思われてきていることが全く異った風に理解されることがあります。この違いを受け入れずに自分の考えが正しいとすると

押しつけになります。戦前日本軍がアジアでやり、戦後日本企業が同じことをやり嫌われました。私は日本の教会も同じことをして来ているように感じます。ただ規模が余り小さいので目立ちませんが、押しつけの宣教は、相手の違いを認めない又は、認めてもそれは劣っていると考えて宣教していく態度です。これは上から下への態度で、日本の教会が優秀だから宣教師を送り、現地の教会は劣等だから助けてやっているという態度になります。ですから、日本の教会は宣教師が現地人の上に立つて日本的なやり方で宣教活動することを求め、又そういう働きを高く評価するのです。これではキリストのからだとしての一体感も、部分として互いに協力していく態度も少なく、まるで「あなたは日本の教会のようでないから、からだに属さない」と言っているようです。

宣教の業は、上から下への働きではなく、相違を認めてお互いにキリストのからだの一部分にしか過ぎないことを認めて、共に教えられ、励まし合いながら、一つのキリストのからだとして働くことです。他の部分の苦しみを自分の苦しみとし、他の部分の喜びを自分の喜びとしていくことこそ、私達宣教師のあるべき姿ですし、宣教師を送り出している日本の教会のあり方でしょう。多くの貧困と戦うキリスト者、迫害の中にいるキリスト者の苦しみを、自分の苦しみとして受け止めている人がどれだけいるでしょうか。外国のキリスト者から学ぶという姿勢がどれだけあるのでしょうか。宣教師を送り出し、支援することに関心のある教会でも、宣教師を受け入れ、共に働いていくことに疎い教会が多いのはどうしてでしょうか。

宣教に於て、異文化は障壁ですが、様々な文化背景を持ったものが協力していくと、利点ともなります。日本の教会がこのような世界宣教の視野に立つて、伝道を進め、教会を形成していくことを望むものです。

JOMA加盟団体一覧表

(50音順)

1. アジア福音宣教会
〒 602 京都市上京区室町通上長者町下ル
TEL 075-432-1025
2. アンテオケ宣教会
〒 330 大宮市東新井17-2
片柳福音自由教会内
TEL 0486-84-1585
3. 海外宣教交友会日本委員会
〒 184 小金井郵便局私書箱11
TEL 0423-84-8994
4. 国際ウイクリフ聖書翻訳協会日本委員会
〒 168 東京都杉並区浜田山4-31-7
TEL 03-313-5029
5. 聖書同盟
〒 182 東京都調布市仙川町1-33-30
TEL 03-315-6293
6. 世界宣教協力会
〒 540 大阪市東区森ノ宮中央1-16-15
三双ビル
TEL 06-945-1040
7. 東洋ローアクリスト伝道会海外宣教委員会
〒 350-04 埼玉県入間郡毛呂山町大字
市場1132-1
TEL 04929-4-6012
8. 南米宣教会
〒 156 東京都世田谷区松原2-29-19
TEL 03-321-6722
9. 日本アッセンブリー教団海外伝道部
〒 170 東京都豊島区駒込3-15-20
TEL 03-918-5935
連絡先
〒 466 名古屋市昭和区安田通り2-17
安田キリスト教会
TEL 052-751-8669

10. 日本福音自由教会海外宣教委員会
〒 603 京都市北区小山東大野町33-4
TEL 075-451-4961
連絡先
〒 332 埼玉県川口市飯塚1-17-4
川口福音自由教会
TEL 0482-53-0434
11. 日本ホーリネス教団伝道局海外宣教委員会
〒 189 東村山市廻田町1-30-1
TEL 0423-94-7466
12. PBA海外電波宣教を支える会
〒 101 東京都千代田区神田駿河台2-1
OSCCビル
TEL 03-295-4923

1983年度

JOMA 活動報告

1983年度もJOMAは主にあつて以下の活動を行なうことができました。皆様のお祈りを感じたいしております。

(1) JOMA通信の発行

第22号 1983年9月

第23号 1984年3月

(2) 宣教師懇談会の開催

日時 1983年7月15日(金)

1:30~4:30

場所 HiBAセンター

出席 19名(宣教師10名、団体代表9名)

(3) 牧師のための海外宣教セミナーの開催

日時 1983年11月17日(木)~18日(金)

場所 お茶の水学生キリスト教会館

講師 デニス・レーン師(OMF)

出席 43名

(4) JOMA宣教地図の発行

1984年3月に宣教地図3,000部を発行。

一部100円にて販売いたしております。